

令和5年度 第4回東京都サービス管理責任者等研修検討会 議事録【要旨】

日 時 令和6年3月15日（金曜日）午前10時から午前12時まで

開催場所 東京都心身障害者福祉センター12階研修室

出席者 妹尾委員長、会田副委員長、橋爪副委員長、宮田副委員長、徳武委員、相良委員、小出委員、丹澤委員、岡田委員、樋口委員、渡辺委員、横山委員、皆川委員、
（欠席 清水委員、吉田委員）

事務局 東京都心身障害者福祉センター地域支援課長 外川 他3名
公益財団法人総合健康推進財団職員 2名

1 開会

事務局	<ul style="list-style-type: none">資料確認（事前にメールで確認済） 次第 資料1 令和6年度更新研修プログラムについて 資料2 東京都サービス管理責任者等研修演習指導者について 資料3 サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修実施への協力をお願い 資料4 基礎研修後のOJTに関する周知文について 資料5 令和5年度サービス管理責任者等研修検討会活動報告（案） 資料6 東京都のサービス提供事業所において障害児者の豊かな生活の実現に向けて取り組む現場のリーダーの姿のVer. 5 <ul style="list-style-type: none">本日の出欠状況は、清水委員と吉田委員から欠席の連絡をいただいている。研修の委託先、公益財団法人総合健康推進財団の職員の方も参加している。記録のために速記者の参加と録音をさせていただくこと、また今回の検討会議事録（要旨）はホームページでの公開対象であることを了承いただきたい。ただし、資料については出席委員の意見により公開・非公開を決めることができる。
-----	--

2 報告事項

妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none">総合健康推進財団から現在の研修の実施状況報告をお願いしたい。
総合健康推進財団	<ul style="list-style-type: none">2月29日の研修をもって、全ての研修課程が終了した。皆様方のご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。11月以降の修了を報告をする。 【基礎研修】 <ul style="list-style-type: none">第1回は受講決定者1,256名、うち演習参加予定者1,115名。8月9月と演習があり、修了者1,089名。受講証明書修了証書を発行し、11月7日に発送が完了。件数は、サビ管の修了者が616件、児発管のほうがか473件。第2回は受講決定者が923名。うち演習参加予定者813名。AからI日程の全9コース実施し、修了者799名。受講証明書と修了証書を発行し、2月7日の日に発送が完了。サビ管が432件、児発管が367件。基礎研修については12月25日の日に、オンラインにて振り返り会を実施。検討委員を含め、参加者は23名。 【更新研修】 <ul style="list-style-type: none">受講決定者が1,178名。うち演習参加予定者1,097名。9月27日

	<p>から10月5日までの期間で半日の研修を全14コース実施。結果的に修了者1,078名。サービス管理責任者が770件、児発管のほうが308件。修了証書については、基礎研修同様、2月7日の日に発送済み。</p> <p>【実践研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・申込者が1,216名、受講決定者が1,216名。動画配信を1月5日から9日まで行い、演習参加予定者が1,120名。1月8日にオンラインにてファシリテーター等説明会を実施。参加者は22名。1月16日からA日程からO日程まで全15コース実施。修了者は1,110名。サビ管が587件、児発管が523件。修了証書について1回目が3月7日、2回目が3月15日に発送。先週、3月8日に振り返り会を実施し、参加者が検討委員を含み、8名参加。 <p>【専門コース別研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目の受講決定者が202名、うち171名が修了。修了証書は12月7日に発送完了。2回目は受講決定者が150名、うち修了が121名となっている。修了証書については、2月9日に発送が完了している。
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度の更新研修のプログラムから7時間分のプログラムが拡大する予定。事務局と更新研修の検討チームで実施方法等を検討いただいている。会田委員から報告をお願いしたい。
会田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1になるが、令和6年度更新研修プログラムとして考えている。今年度までは6時間の講義と演習だったが、令和6年度からは7時間分のスーパービジョン（以下、SV）に関する講義及び演習が加わる形となる。検討委員とも研修期間を2日間にするかなど意見が出たが、最終的には動画配信を6時間30分とし、この動画配信の中にサービス管理責任者等としてのSVで3時間を加えている。 ・また集合での演習を5時間30分かけて行う予定であり、これまでのサービス提供事業所としての自己検証、サビ管、児発管としての自己検証に加え、演習4では事例検討のSV、演習5ではサービス提供職員等へのSVを3時間分を加えた形となっている。 ・事前の動画配信と1日の演習だけでは時間が足りていないので、事後の動画配信として演習3でサービス管理責任者等としての自己検証、演習6で更新研修のまとめを30分ずつ行う形にし、動画配信部分と集合での演習を振り返り、トータル13時間にできればと考えている。 ・事後の動画配信をどう取り組むか、取り組んだ結果をどう確認するのかなど、何か提出をしてもらおうかといったところがまだ詰められていないので、引き続き検討を重ねていけたらと考えている。
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・質問、確認事項等ある方は。
樋口委員	<ul style="list-style-type: none"> ・更新研修の中で協議会についてというのが以前あったと思うが、今回は更新研修では扱わないのか。
会田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会は、演習1の関係機関との連携として引き続き扱う形になっている。あとは事例検討のSVやサービス提供職員等へのSVを行うに当たって、通常ファシリテーター説明会だけでは難しいのではという意見も出ていて、SVに関する説明会を集合形式で行えたほうがいいのかとの考えも出ている。
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・時間が若干あるので、逆に会田委員から何か皆さんに意見が欲しいことはあるか。同じ更新研修チームの方から補足でも結構だがどうか。

樋口委員	<ul style="list-style-type: none"> 実践研修の中で協議会を扱っているので研修間での連動であったり、職員への助言指導というのが実践研修でもあり、それが更新研修ではサービス提供職員へのスーパーバイズだったり、事例検討会もこういうふうにやるといったことを実践研修でやってからの更新研修になると思うので、その辺のつながりをさらに重視していけると良いと思う。
丹澤委員	<ul style="list-style-type: none"> 協議会の部分に関しては、私が担当する関係機関との連携で個人的に事例を報告する中で八王子市の自立支援協議会の組織図で説明、実践研修で扱う内容を深めに触れるぐらいという感じだ。職員への助言指導のことはどうか。
徳武委員	<ul style="list-style-type: none"> 特に実践との連動というよりもSVの観点として職員の助言指導という演習になるかと思っている。
皆川委員	<ul style="list-style-type: none"> せっかく機会をいただいたので委員の皆さんに伺いたい。SVの講義と演習を設ける必要があり、検討チームから話しがあったが、SVという位置づけになっているが、例えば会議や相談の司会進行というレベルと、いわゆるSV、指導ということ、もう一つファシリテーターという役割が私の中ではごちゃまぜになっており、委員で検討を重ねることで、すごくすっきりしてきたということがあった。実際、現場でその辺の認知度というか、理解度とか実践度はどのくらいなのか肌感覚で知っておきたいと思っているがどうか。ご意見を伺いたい。
橋爪副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 特に深い認識があるわけではなく、SVというか、バイザーというか、うちもケース検討をやったりしているが、特段SVという形で銘打ってやっているわけでもない。なので定義していただく形をそのまま受け止めて、そうなんだねという形になってくるかと思っている。
宮田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 私は心理士なので、スーパーバイズ、スーパーバイザーみたいなSVを受ける側とやる側みたいなものを学ぶので何となくイメージがあるが。福祉の現場でSVという名前でそれをやっているかという和多分やっていなくて、個別支援計画書とかケース検討のときにその担当職員が話すことをサビ管、児発管が「これってこういうこと？」と聞いたり、「こういう視点はないの？」といった感じで深めたり、新たな意見とか、事例検討をやるということがSVなのかと思うが。 そういう整理をすればSVとは何かと分かるが、先ほど言われていたように定義していただいて、あれがSVということだよ、こういう視点が大事だよみたいなことが、普通の助言とは違うし、自分の意見を押しつけてはいけないし、方向性としてSVをやる目的みたいなことを示していただいたほうが受講者としては良いのでは。 ケース事例を良いように進めることが良いみたいな感じになってしまうと、グイグイ進めていってしまったりすることもあると思うので、SVの目的とか定義を最初にしていただけると、あれがSVで、ここを押さえるんだみたいなものがあると良いと思う。
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> では、この件は皆さんよろしいか。
各委員	(なし)
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> 次に演習指導者養成研修（以下、演指研）に伴う報告を、検討チームの相良委員と事務局でお願いしたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 今日の資料とは別に、演指研で検討いただいた資料を配付している。具体的には尾上さん、相良さん、岡田さんの打合せによってまとめた資料を参考

	にお配りしている。これの経緯を相良委員から報告いただけたらと思う。
相良委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 演指研のほうは、ファシリテーション（以下、FT）とは何かといった講義を受講生にしており、それを株式会社マーケティングインサイトの尾上さんという方に担っていただいている。 ・ 岡田さんに基礎研修の概要をお話しいただいている。私が振り返りの時間を持つという感じで、3段階でやっており、私も多分皆さんもそうだと思うが、ファシリテーターをやったり、教室進行を担う前に、今の演指研の受講者みたいにFTとは何だということを教わってやってきていない。この講義を演指研を担当しながら非常に学ぶ部分があり、先ほどSV、またFTについてもぼんやりしているという話があったが、私自身もまさにそうで大変勉強になった。 ・ 配布しているのは尾上さんの講義の資料から、かなり抜粋して分かりやすい部分をまとめていただいていると思う。実際にはサビ管、兎発管としてFTをやりながら、FTの部分と教える部分というのを両方やっていることも教わってきており、できればこの資料を演指研の方だけではなくて、既にファシリテーターや教室進行をやられている方にも参考に配ったらいいのではということで作られた資料である。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ ファシリテーターが足りないのをどうしたものかとか、担うときのサポートが少し不足があるのかと感じていたので、来年度、ファシリテーターを担っていただく方々には、それぞれの研修の資料と共に、このFTの基礎というのをファシリテーターをなさる時の支援の一つとして活用いただけたらということで配布したいと考えている。 ・ ご存じのようにサビ管の研修は委託で行うので、配付についても委託事業の中でやっていくことになるが、配る前に検討委員の皆さんにも、内容について知っていただきたいということ、また作るに至った経緯と感じたことを、検討委員の相良さんから説明いただいたほうが皆さんに伝わりやすいと思い報告事項に挙げた。事務局としては配付時の留意点などあったら、一言いただければありがたいと思っている。
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ FTの基礎の資料の必要性や、これを使うことが研修の充実につながると説明いただいたが、質問や確認事項等あるか。
岡田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たなファシリテーターの方も毎年、演指研受講者が7～8名というところだが、この数年オンラインだったので新しく入ってきた人たちや2、3年目の人たちとも、あまりコミュニケーションを深められていないと思っている。数年経った人とも改めて確認するようなものを作っていかなきゃいけないと思っている。基礎研修でいうと最初の説明会の内容を確認すべきかと思っているが、尾上さんの話を聞きながら、相良さんと皆に聞いてもらいたいと話し、改めて確認する機会があれば良いと思っている。
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本件について、参考として尾上講師の資料を配付したが、この方の専門分野になり、著作物になるのでホームページ上では掲載しないことにしたいが、よろしいか。
各委員	(異議なし)
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 続いて報告事項4の令和6年度研修協力への意向調査について、研修協力者をより多く確保できるよう、これまでファシリテーターの協力をしてこられた方に呼びかけを行っている状況。どのように呼びかけの準備等されている

	かを事務局から報告、説明をお願いしたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2月の末に、令和元年度からファシリテーターを担っていただいた方、またファシリテーターは遠慮するという返事を昨年までいただいた方、今年度の演指研も含め、全員で120名の方に協力いただけないかとお願いをしました。昨晚の時点までで、43名の方から回答はいただいている。ただ去年の人数にまだ足りていないので声かけを考えている。 ・ また今年、SVの説明会などを新たに行うので、改めて声かけを続ける。皆様においても知っている方で、未回答という方などいたら、ぜひ回答をお願いしたい。
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 皆さん、時間を割いて担っていただくのはどこの現場も厳しいかと思うが、お知り合いの方等引き続きお声がけしていただけたらと思う。ファシリテーターを経験すると、ぐっと実践力が高まるので、是非とも自身の研修のためにも協力いただければありがたいと思っている。特に本件について質問や確認事項等、アイデアがあったら出してほしいがいかがか
各委員	(なし)
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き報告事項5の基礎研修修了後におけるOJTに関する周知について、事務局より日頃の問合せ等を基に、基礎研修後のOJTについて検討委員の皆様にも共有したい案件があり、その内容について事務局から報告をお願いしたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料4で、基礎研修後のOJTに関する周知文について、今年度はOJTの内容について基礎研修、実践研修で取組み、更新の研修でも取組んでいただいている。 ・ 私どものところにOJTの問合せが法人・事業所、受講者・受講希望者からも多数あり、サービス管理責任者や児童発達支援管理責任者（以下、サビ管、児発管）がいない事業所でも実務経験を認められて2年間過ごすことができる。そういった部署で働いているがOJTはどうしたらいいかとの質問があったり、人事担当者から当然研修を受けられるんですよねとの連絡まである。 ・ 令和6年度からは、5年度までは経過措置で更新研修を受けられた平成30年度以前の方で更新研修受けなかった方々が実践研修を受けるということで、OJTを受けないで受講できる要素が増えていくかと思ひ、研修の内容だけでなく実施案内等の留意事項の一つとして注意喚起が必要でないかと考え、令和6年度はこの文案を出そうと思っている。 ・ 考えを知っていただくことと、その前提で研修の準備をいただきたく本日、報告する。追加説明文は、「サビ管・児発管として配置するには、基礎研修の修了後2年以上の実務経験を経て、実践研修を修了する必要がある。修了後、直ちにサビ管・児発管として配置できるよう、実践研修はサビ管・児発管業務のOJTを前提にプログラムが構成されている。事業所においては実践研修受講時まで、受講者が以下のOJT内容を理解・経験した上で研修に参加できるよう留意いただきたい。新規利用者の初回面談、個別支援計画原案の作成、サービス担当者会議への参加、区市町村自立支援協議会への情報収集、個別支援計画のモニタリング」である。この文が出された後、現場の方々でどう受け止められるか少し危惧もしているので、意見をいただけたら有難い。よろしくをお願いしたい。
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ この件に関して私も事務局から事前に説明や背景を伺っている。各事業所が

	<p>少人数の現場配置だったりすると、OJT自体を現場で必ずやっていると明確に打ち出すのはやや厳しい事業者もあることを想定し、研修に参加できない事態になるのも困るし、逆にそのまま研修に臨むと、本来の研修の意図とは外れてしまうこともあり、なかなかデリケートな部分と伺っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この辺りをこういう表現やニュアンスのほうが微妙なところについて、現場の方に研修の意図がより伝わりやすいのではということや、OJTの取組について少しでも前向きに受け取っていただけるものはないかという辺りや、こういう書き方が上司に依頼文としていくと話が通りやすいといった辺りを、現場の視点で皆さんから意見をいただければと思うがいかがか。
宮田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・実践研修を担当して実際に研修の教室進行も行った。実践研修では、事前課題でOJTの実施の現状を受講者に調べていただいているが、比較的、個別支援計画原案の作成はされている方が多く、一方で会議関係のOJTを受けていない方が多くいたという印象がある。 ・今、受けられている方は基礎研修でOJTを扱っていない時期に研修を受けているので、もちろんそれを知らずに2年間を過ごしている現状なんだという感じなので、これから受ける方たちは、ちょっと意識して取り組んでいただけるといいと思うのと、あと実際に新設する方たちは受けられなかったりと思うが、基礎研修を受けているという前提があって、基本的な方法論とかはご存じであれば、OJTを受けない代わりに、大学受験じゃないが、何か事例についてケースをまとめて出してもらおうとか、個別支援計画書を個人名を伏せて書いたものを実際に出してもらおうとか、その書面で何らかのケースの実践報告みたいなものを出してもらおうのは有りかなと思った。
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・宮田委員のように受講者の反応も踏まえて、こういう状況ではないかとか、具体的な提案も含めていかがか。
丹澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私も先日まで、実践研修を3日程経験させていただき、担当したグループの中で、新設の所を含めて先輩サビ管がいないので、OJTを受けられていない方に何人か出会った。教えてもらえない、会議に連れて行ってもらえない人もあり、どうしたらいいかとの話があった。 ・近隣やお知り合いの事業所で実習みたいな形でできると良いと思った。ただ新規利用者の初回面談は、いつもあるわけでもないし、個人情報のこともあるので、実習としてどの程度入れるか。実際、精神保健福祉士の実習と看護学生の実習も受けているので、個人情報の取扱いについて覚書を交わしている。先輩がいない、教える人がいない場合は実習をするのもありかと思った。
会田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援の初任者研修を受けていて、事前課題が他事業所の相談支援専門員から、自分が作ったサービス等利用計画やアセスメント表を見てもらうというのがあったので、自分のところの利用者を対象にして作った成果物を他のサビ管や児発管に見てもらおうというのはありかと思った。それで横のつながりもできたり、研修後も困った時に相談できたりするパイプにもなるかなと。丹澤さんの意見と近い感じはした。
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的なお意見ありがとうございました。その他よろしいか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・問合せはR1とかR2の方だけでなく、今年度に演習指導、基礎研修を受けた方からも来ていて、(OJTが記載されてる)演習ノートを持って帰るが受け止める先がないという話で、自分の事業所ではできないし、一応上司には相

	<p>談したけど相談で終わってしまったみたいなのがあって、取りあえずは演習ノートの振り返りをしてという話しかできなかったの、何か言えることができるかもしれないと思った。</p>
橋爪副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・OJTについて基礎研修で扱っているが、事業所などにOJTのお願いなど何か伝えているか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・特に今はない。
橋爪副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・この文はどこに出すものか？
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施案内に。そこに選考時の留意点なども書いている。その中の一つに、こういう内容のことを行うことを盛り込むことを考えている。 ・国の制度としては、基礎研修を受けた後に2年間OJTをしながら過ごすことが書かれている。具体的にどうしたらいいかを基礎研修で書いていただいた。お問合せには演習ノートの確認を案内しているが、OJTがないと話を聞く。 ・制度的には、配置のときにはサビ管等がない事業所での実務経験も配置には認められている。部署によってはOJTの濃さに濃淡が出るし、足りないのかもしれないと話をする。ただ、実践研修を受けるときは、そういった知識が必要になるので基礎研修の演習ノート等で書かれた内容について理解しておくようお願いをしている。
橋爪副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎研修でOJTの文面を出し、そこから具体化が始まっているのは良かったと思っている。さっきのファシリテーターのこともそうだが、どちらかというと事業主や管理者向けに伝えていく内容を、基礎研修を通して本人経由で事業所に伝わっていくという形が今一つであると、やってみて思っている。 ・事業所はOJTのことを事前に知っていて、事業所の基礎研修修了者が「研修でこういうことを言われた」という相互にならないと事業所を動かすのは難しいと思うので、研修受講は推薦という形なので、申込の推薦の項目に入れては駄目か。例えば、こういう研修を受けているがどうかというのを本人が伝えるのではなく、申込み段階でOJTの確認を必須で行うなどの形で進めていくのは難しいものか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・まさに言われたことをやりたく、推薦者が読むであろう実施案内に明文化し、OJTが前提となった実践研修を受けるので、基礎研修が終わった後はこれを取り組んでくださいねというメッセージにならないかと思っている。申込書に項目を設けるかどうかは、先ほど先生が言われたデリケートなところがあり検討が必要かなと思っている。
橋爪副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりました。
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・良い着地点をまた模索していく形でよろしくお願ひしたい。この件について何か新たなアイデアのようなものがあつたら、事務局にお寄せいただければと思う。

3 検討事項

妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・では次が検討事項ということになる。年間のまとめ及び次年度の引継ぎ事項について、各チームで検討していただくというのが本日の検討事項になっている。ここからは検討チームに分かれて意見交換をしていただく。合わせて、事務局作成の活動報告案の確認、次年度への取組として、まとめる内容の確認をお願いしたい。
-------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度のテーマである、各研修でつながりを意識したものになっていたかを一つのポイントとして、1年間のまとめと次年度への引継ぎ事項についてまとめたい。
--	--

各検討チームの報告

妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・これからは各チームの報告をお願いしたい。 ・各研修の副委員長の方から検討の結果の報告を5分程度でお願いしたい。
橋爪副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎研修です。活動成果のところから見直していった。各演習、基礎研修は演習8までであるが、昨年度は本当につながりを意識して1から8までが連動するようにしたが、ある程度できた。 ・実践研修には特に思うところだが、他の研修とのつながりも随分意識してできた。OJTのところから実践研修では基礎研修のことを出していただき、そこでやったことと随時出していただいているところ含めて、つながりができたかなということが活動成果としてあった。 ・演指研では外部講師との打合せがしっかりできて、現状の基礎研修の内容だったり、具体的なことを外部講師から教えていただけたという意味だったりだとか、それと使用する教材がブラッシュアップされたところがあった。集合型になったことで、演指研の対象者に対してフォローがより行えた。活動成果の2から5はそのままでいい。 ・来年度については、ファシリテーターのコメントは何をコメントしてもらうかをもう少し絞って、具体的に出せるようにして効果的にしたい。報酬改定との連動、新しい項目をどこまで取り入れていくかを基礎研修では常に話が出てくる。コラムや巻末をもっとうまく使ったほうがいと話している。 ・同じように講義と演習の連動性も出し、演習の中に全部を盛り込む形にせず、うまく使い分けていく必要がある。どこまで伝えるべきか分からないもの、例えばアセスメント内容や分野別によって差があるものは、全部コメントできない。例えば巻末コラムに各分野が使っているアセスメントシートを掲載するだけでも、何となく伝わるものがあったり、説明をしてないということにならなかつたりする。そういう点を有効に使うことも考える。 ・講義に関しては、どちらかという講義みじみじと、言いたいことを言っている講義になってしまっているが、実際には演習でやっている内容だったり、何を伝えていくかというのを同じ軸にして、講義でやったものを演習でできるようにしていきたいと思っている。 ・その面で、講義と演習の間に事前課題や動画を見ていただくだとかが入ってくる。講義でやったことと演習とのつながりを課題でうまくつないでいくとか、そういったところを検討できるといいかなという話になった。
宮田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・実践研修では今年度、初めて対面式になったことで、至らない点や考えていくべき部分は、かなりあると思っている。実際に教室進行をする中で、気づいたところをみんなで共有し、細かなところはいろいろあるが、大きくは研修、演習の流れを改めて考え直したい。今後、流れを変える、その流れの案として考えたものになっている。 ・演習の細かな内容はある。先ほど基礎研修でも言われたように、ファシリテーターへの説明にあたり目的を明確に伝えるべきではという話しになった。先ほどOJTのことも全体であったが、実践研修をやってみると、本当に基礎研修のことを覚えてない方が多く。今回、講義にもスライドを使わせてもらったが、

	<p>OJTを受けてきたか、OJTをどう受けてもらうかなどについては、新たに基礎研修の内容を1回振り返ってきてもいいのではなど。</p> <ul style="list-style-type: none"> 先ほどもあったように、管理者側と受講者側が両方とも研修の目的を理解して、送り出してもらわないと、ただその場を受けて終わるみたいな感じになってしまうのも違うし、これからサビ管になるので、このことを理解して、この考えを大事にして、実際に実践をしないといけないという気持ちで帰っていただきたいと思うので、その辺りをきちんと伝える必要があるかと思った。
会田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 更新研修は昨年と同様に演習を2日間実施するに当たって、一部を動画配信で行った。半日の演習が久しぶりに集合になったのは、これまでと違ったところ。演習1の関係機関との連携については動画配信のみであったが、秋谷さんから丹澤さんに変更されたので、一部撮り直しをして、内容は大きく変えず関係機関との連携の実践や自立支援協議会の取組を報告した。 演習2は事業所としての自己検証だったが、こちらも大きく変えず、チームとしての検証や事業所としてやるべき職務の検証を動画と演習で行った。動画配信をしてから演習まで日が経ってしまうので、そのつながりのところをもう少しやれると良かったという点と、演習でとにかく時間が足りなさ過ぎて、読み原稿と設定の時間が合っていなかったので、しっかり見直したい。 演習3はサビ管としての自己検証でエピソードシートというものを使ってグループワークを行っていったが、職員とのエピソードではなくて、利用者とのエピソードを書き忘れてしまっている方が何人かいた。ツールの問題なのか、間違えられないようにしようといった話は出ていた。 次年度に向けては、自立支援協議会について基礎、実践、更新で、それぞれどこまで理解度を求められるといいか、すみ分けができてもいいかという点。また実践研修で協議会のことを調べて、また5年経って、おさらいの意味で調べてもらうので、内容が重なってもいいかといった意見も出ていた。 サビ管としての自己検証のところでは、更新研修を受講した人はOJTをやるんですよということを明確に打ち出していくのは引き続きやっていきたい。次年度は事後の動画配信に振り返りを入れるので、そこで入れてもいいかという意見は出ていた。あとは、どんなサビ管になりたいかというところではなく、どんなサビ管を育てたいかといった取組を入れていってもいいのではという意見が出ていた。あとは、次年度はSVの講義、演習が入るので、SVを行う目的や定義づけなどを押さえながら、個別支援計画にも良い影響が出るようなものになるといいという意見も出ていた。
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> 各研修チームの委員、ありがとうございました。今一通り報告をいただいたが、質問とか確認事項等あるか。逆に自分たちのグループではこういう意見が出たので、他のチームでどう考えるかみたいなのがあってもいいかと思うが、よろしいか。
丹澤委員	<ul style="list-style-type: none"> 演習1の関係機関との連携のところ、八王子市の自立支援協議会のことを触れていると前半に話したが、それ以外でも自立支援協議会のことを触れていた。それで実践研修では事前に自立支援協議会を自分たちのエリアで調べ、グループワークで事業所だけでは解決できない地域課題を皆で取り組む。更新研修では事前課題で個人ワークでやっていただく。更新では、個人や事業所では解決できない問題を自分で見つけ出して、自立支援協議会で連携した例があればというのを事前課題で取り組む。

	<ul style="list-style-type: none"> ・更新研修のチームで話した中で、基礎研修、実践研修、更新研修とそれぞれで自立支援協議会の理解をどのレベルで求めるかという到達点、あとつながりを考えるために、その部分を担当する委員とのすり合わせや確認をしてみてもいいのではとの意見も出た。補足と話があったことをお伝えした。
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。とても大事なところの発言をいただいているので、ちょっとだけ延長よろしいか。
橋爪副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・丹澤委員からも話があったと思うが、この検討会自体は1年に4回あるが、どうしても時間がないのでチーム毎の話の際に実務的なことを話してしまう。今言っていたように、同じテーマの中で交差する部分を意見交換等する会があってもいいかと思う。「これはここに揃えていきましょう」といったことが検討会であると良いと思った。
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・その他にいかがか。今のように検討会そのものに対する会議の持ち方でもよいし、どうぞ。
岡田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・演習ノートや教材を以前のように冊子で受講者に配ることができないかと思ってる。受講者はちゃんと印刷してくる人もいれば、小さいサイズにする人もいたり、演習ノートを振り返るよう言っても持っていない人もいる。だから、振り返ってくださいと言えるようなものに配慮していかないと難しい。講義と演習の連動性も図ろうと思って出たが、そもそも受講者が講義資料を手元に印刷して持っているかということから考えると、そこもお願いしたいと思う。
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・では各検討チームからの報告を基にして、事務局案を加筆修正して、令和5年度の活動報告、次年度への取組みにしたいと思っている。事務局からは、加筆修正後、委員の皆さんの了承の確認が後日に連絡があるということによるしいか。本日の議事録と資料をホームページの公開について、皆様よろしいか。
各委員	(異議なし)
妹尾委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・では、本日の検討事項が済んだことを宣言し、進行を事務局のほうに戻したい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・年度最後に地域支援課長より挨拶
外川地域支援課長	<ul style="list-style-type: none"> ・妹尾委員長をはじめ、委員の皆さん、総合健康推進財団の皆さん、この1年間ありがとうございました。おかげさまで、無事研修も滞りなく終了することができた。本当に皆さんのおかげです。 ・引き続き、次年度も東京の障害福祉の発展に向け、特に障害当事者主体を中心に置くところを大切にしながら、尽力願います。 ・自立支援協議会が話題にでたが、東京都自立支援協議会事務局は当センターで、東京の自立支援協議会の動向として各区市町村のアンケート結果を毎年度当センターのホームページ掲載しているの参考にさせていただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは以上をもちまして、第4回の検討会のほうを閉会する。皆様、本当にありがとうございました。

(午前12時05分 閉会)